今後の地方銀行

2019-09-24

AR6005

まりか

1. 概要

- 地方銀行の今後の施策を述べる。
- 都市銀行との比較や差別化だけでなく、信用金庫や電子決済サービス、投資信託とも比較していく。

2. 普通銀行の種類[1]

普通銀行を規模や、営業している地域、成り立ちで分けると次のように分けることができる。

- 都市銀行

大都市に本店をおき、全国規模でサービスを行っている。経営統合などにより、現在は、みずほ銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、りそな銀行、埼玉りそな銀行、みずほコーポレート
の6行。みずほコーポレート銀行は企業向けのサービスに特化。

- 地方銀行

地方都市に本店をおき、地域経済を営業の地盤としている。横浜銀行、千葉銀行など。全国地方銀行協会に加盟する64行。

- 第二地方銀行

地方都市に本店をおき、地域経済を営業の地盤としている点は地方銀行と同じだが、もともと相互銀行だったところが多いのが特徴。東京スター銀行、関西アーバン銀行など。第二地方銀行協会に加盟する45行。

- その他新しいタイプの銀行

インターネット専門銀行や、ケータイ銀行など、新しいタイプの銀行が生まれている。また、かつての長期信用銀行が、名称を変え個人向けのサービスを重視する銀行として生まれ変わっている。新生銀行、あおぞら銀行、ソニー銀行、イーバンク銀行、ジャパンネット銀行、セブン銀行、住信SBIネット銀行、イオン銀行、じぶん銀行、日本振興銀行、ゆうちょ銀行などがある。

3, 地方銀行の現状

- 全国の預貯金残高1203兆2097億円のうち、
地方銀行全体で27.5%のシェアを占める。(2016年度)[2]
- 貸出金残高589兆3799億円のうち、
メガバンクが39.8%に比べ、
41.1%のシェアを占める。(2016年度)[2]
- 地方銀行64行
第二地方銀行41行で合計105行存在する。[1]

4, 地銀不振・地銀再編の3つの要因[2]

3つの要因によって3大ビジネスに苦戦

- 人口減少と高齢化
- AI化・フィンテックの興隆
- 低金利環境の長期化

5, 今後

- AI導入と店舗統合 [2]
- 法人融資では顧客に今まで以上に、寄り添ったコンサルティングを
- 法人融資より個人向け資産運用ビジネスへ転換か
- フィンテック化の加速

6, 参考文献

- [1]<https://allabout.co.jp/gm/gc/18695/>
閲覧日2019-09-10
- [2]高橋克英, 図解でわかる地方銀行, 秀和システム,
2017-09-20
- [3]高橋克英, 図解入門ビジネス最新地方銀行の
現状と取り組みがよ~くわかる本, 秀和システム,
2018-03-01
- [4]伊東眞幸, 地銀連携—その多様性の魅力, 金融財政事情研究会, 2014-05-09
- [5]津田倫男, 地方銀行消滅, 朝日新聞出版,
2016-09-30

7, 今後の方針

- 地方銀行各行で施策の特色が異なるので比較し
まとめる。
- 信用金庫や電子決済サービス、投資信託とも比較
していく。
- RPAの導入やフィンテックによって可能になることと
は。